

## 特記仕様書

本業務の施行に当たっては、岡山市制定「用地調査等業務共通仕様書」（以下、共通仕様書という。）によるほか、共通仕様書に対する下記の特記及び追加事項に従い業務を履行しなければならない。

### 1. 打合せ・協議

（１）打合せ協議は、下記の主要な区分において行うこととし、３回を予定している。

- １）業務着手時
- ２）中間打合せ時
- ３）成果物納入前

（２）打合せ・協議の際は、主任技術者が出席すること。業務着手時は、主任技術者及び照査技術者が出席すること。

（３）打合せ・協議の後に受注者は、打合せ記録簿に打合せ事項を明記し、監督員に提出し確認を得ること。

### 2. 資料の貸与及び返却

（１）本業務において必要となる資料については、初回打合せ時において、双方確認し貸与する。

（２）貸与された資料は、業務完了時に速やかに返却すること。

### 3. 受注者は、契約締結後速やかに着手するとともに、初回打合せ時までに主任技術者及び照査技術者の届け出を行い、承認を得ること。

### 4. 共通仕様書第 15 条に規定する作業計画の策定について、再算定や簡易な委託においては、作業計画書の作成を省略することができる。

### 5. 照査技術者は、成果物の検査時に出席し、照査報告書を提出し、照査内容について説明するものとする。

### 6. 委託契約書第 7 条第 1 項の「主たる部分」とは、次に掲げる事項であり、これを再委託することはできない。

- １）業務の総合的企画
- ２）業務の実施手法の比較検討・決定
- ３）業務遂行管理

- 4) 物件調査算定業務に係る技術的判断
- 5) 成果物の点検及び補修（検証）
- 6) 照査技術者による照査

7. 移転補償金の調査算定要領等は、国土交通省中国地方整備局作成の「補償金算定標準書」による。

#### 8. 物件調査における留意事項

- (1) プレハブ建物及び2×4建物調査においては次に掲げる事項に留意すること。
  - 1) プレハブ建物及び2×4建物の見積徴収及び算定については、中国用対連参考通知（事務連絡 H24.6.18）によること。
- (2) 木造・木造特殊建物調査においては、次に掲げる調査結果を報告すること。
  - 1) 柱の略図（材種・節の位置・柱径等を記入）
  - 2) 柱径の計測写真
  - 3) 撮影した柱の位置を示す図面
  - 4) 経過年数、残耐用年数の判定資料
  - 5) その他、参考となる資料
- (3) 非木造建物調査においては、次に掲げる調査結果を報告すること。
  - 1) 採用した耐用年数の判定資料
  - 2) 鋼材肉厚の判定資料（計測写真等）
  - 3) 構造の判定資料
  - 4) 既存図の写しは、報告書に添付すること。（特に杭工事、鉄骨の肉厚の解るもの）
  - 5) 建築設計会社・施工会社からの聴取がある場合は聞き取り内容を報告書に記載すること。
  - 6) 不可視部分を調査対象とした判定資料
  - 7) 既設浄化槽の種別及び人槽を確認した書類等

#### 9. 成果物

- (1) 成果物は正副の2部納品とし、正本に照査をした赤チェックを記すこと。
- (2) 報告書の図面データはSXFデータで、積算データはエクセルデータで、文章データはワードデータにてCDに整理保存して1部納品する。（ウイルスチェックは必ず行い、CDに記すこと。）
- (3) その他、データの種類を変更する場合は、監督員と打合せを行うこと。

#### 10. 委託業務チェックリストの実施について

岡山市委託業務チェックリスト運用要領に基づき照査すること。岡山市委託業務チェックリスト運用要領及び様式は下記のホームページで入手できます。

<https://www.city.okayama.jp/jigyosha/0000032666.html>

#### 11. その他

- (1) 作業中の事故、その他による一切の損害については受注者の責任において処理すること。
- (2) 履行期間厳守のこと。
- (3) 本作業中において疑義が生じたときは、発注者と受注者との打合せの上決定すること。